

【活動レポート】6/10 VOLAS 学習会 「国際協力の話ー広告プランニングの観点からー」



今回の学習会の大きなテーマは「社会の中の国際協力」。広告代理店で働く佐藤さんが、その仕事の中で関わっている国際協力の仕事や、仕事の中にある国際協力的な考え方を中心に話をしてくださった。この国際協力的な考え方の基本は、相手が何を求めているのかを察知し、それに対してアプローチをすることだ。佐藤さんの仕事もまさにこの考え方を使って、相手のニーズを察知し、それを解決するための策を考え、提案している。

佐藤さんの説明は続く。途上国への進出を考える企業と、それを支援するための助成金を考える政府、そして、その間に入り円滑に物事を進めていく代理店。どのようにして、3者が目指しているところを摺り寄せ、ウィンウインの関係を作ることが出来るか。その交渉の中で、どのようにすれば、相手に分かりやすく伝わるか。実際にあった事例をもとに、ものすごく分かりやすい説明を

展開してもらった。私も、その説明にのめり込み、なるほどこのように物事を進めていくのだなと感心して聞いていた。そして、最後の言葉に、はっと我に返ることとなった。「だれか、忘れていませんか？」

その説明の中で欠けていたのは、現地の人々が何を求めているか？という視点であった。国際協力的な事業に携わり、国際協力的な視点を使い行いうんぬんの事業。この言葉の中には、何も悪いところは見当たらない。しかし、「悪い」ではなく、「見えていな」かったのだ。もしかしたら、この事業は「ウィンウィン(ルーズ)」になってしまうかもしれない危険性をはらんでいた。

仕事をするということは、基本的に誰かのニーズやウォンツを満たす行動をするということであると思う。見えているニーズ達を、円滑に最高の質で満たすことが、仕事をする上で求められる。それはもちろん必要な事であり、何も間違っていない。しかし、目の前のニーズに目が奪われるがあまり、肝心なものや人を忘れてしまうことがある。そのジレンマのようなものがあることを、今回の発表を通して知ることが出来た。

その後、佐藤さんに話を伺うと、「社会人になって、良いも悪いも取り込んで台風のように蛇行しながら向かうべき方向に進んでいけるようになった(いかざるを得なくなった)」とおっしゃっていた。確かに、完全に善ではないことには問題もあるが、しかし「良いもの」を求めすぎるがあまりに身動きが取れなくなっていたら何も起こらない。このバランスを取っていくことが大切であると、今回の話を通じて学ぶことが出来た。

(言語文化学部英語専攻3年 関谷昂)

日時: 2016年06月24日